家族の協力と婦人部仲間ですすめる婦人部活動

千代田町漁協婦人部
西村由美子

１．地域と漁業の概況

私の所属します千代田町漁協は、佐賀県の漁協の中では、最も東部に位置し、とうとうと流れる筑紫次郎の異名をもつ筑後川で、福岡県と県を境にし、その懐に抱かれて広がる筑紫平野の中央にあり、今なお、多くの人に愛読され親しまれている「次郎物語」で有名な下村湖人の生家も残り、また、隣町の三田川町には、古代弥生時代の女王卑弥呼のロマンをかきたててやまない、吉野ヶ里遺跡が静かに眠っています。

私達の地域では、秋から冬に海苔養殖を行い、春には潮干狩りやモガイ漁、５月に入ると、その昔、この地を訪れになった弘法大師様が、お世話になった人たちへのお礼にと、岸辺に茂る葦の葉をそっと筑後川に流されたところ、それが魚になって泳ぎだしたと言い伝えられているエツ漁が解禁となります。

川面いっぱいに張られた刺網に、産卵のため、自分の生まれた場所に登ってくるエツを、川の流れに揺られながら小船で待ちます。ひと昔前には、網が銀色に染まるほど獲れたと言いますが、最近ではめっきり数も減り、食卓に登ることも少なくなってきました。これも、川の汚染や上流から護岸整備が進み、産卵場所である葦の茂みが奪われてきたからです。私達が安心して暮らせるようになった分、自然がなくなっていくのですね。

私達の組合の経営状況を見ますと、７６名の大半の組合員が農業との兼業で、９月頃から翌年３月頃までは海の仕事と麦作で、４月から夏場にかけては米作を中心とした兼業農家です。

秋の田んぼの取り入れと海苔の種付け、育苗が重なり、冷凍入庫から摘採に入ると、忙しさはピークに達したまま、一冬、一家総出で頑張らなければなりません。漁業と農業の二足の草鞋をはく経営ですが、それでも楽しみながら、毎日の仕事に励んでいます。

２．婦人部の活動状況及び成果

私達の婦人部は、昭和３３年７月１０日に１５名の部員で結成され、一番多い時で７９名いた部員も、海苔価格の低迷や部員の高齢化、後継者不足に加え、漁家婦人の多忙化で現在５１名の部員での活動となっています。

婦人部の取り組みも、毎月の積立貯金から始まり、昔ながらの氏名ごとに区分

けされた木製貯金箱を手に、班ごとの家庭をまわり、お互い情報を交換しあったり、顔色を見て健康を気づかったり、悩みごとを相談しあう大事なふれあいのひとつとなっています。

私達の仕事の基地である漁港の清掃、集落内のクリークの清掃と環境保全に努め、環境破壊が進む今日、大事な水を汚す合成洗剤の追放運動に部員全員が取り組み、植物性せっけんの愛用と地域住民の方への普及推進に努めています。

６年度は、家庭の台所から出る生ゴミを減らして有機堆肥に変えようと、ＥＭ菌を使ったボカシ堆肥作りに挑戦しました。

ＥＭ菌とは、Effective Micro-organisms 有効微生物群の略で、光合成細菌、酵母菌、乳酸菌、麹菌などの微生物のことです。

琉球大学の比嘉教授が研究され、佐賀でも講演会が開催され、我が千代田町でも役場が中心となり、千代田町活性化の一環として、ボカシ堆肥の普及に努力されております。

私達婦人部も、身のまわりの自分達で出来ることからと、役場職員の指導のもとに、スライドや冊子を使って勉強しました。モミ殻や米ぬかにＥＭ菌を混ぜ合わせ、それを数日発酵させた後、日陰干しをし乾燥すればボカシが出来あがります。

海苔集荷場の土間を利用して、役場から借りた動力の撹拌機で混ぜ合わせ、袋詰めや乾燥のため、土間いっぱいに敷きつめたビニールシートの上に広げるのも、わいわいがやがやと部員同志のコミニュケーションを取り合う場でもあります。

できあがったボカシを分配し、炊事のたびに出る生ゴミを専用の容器に入れ、ボカシをふりかけておくと容器の底に発酵液が溜り、その液は別の容器に保管します。１０日程経つと白く発酵し、生ゴミ特有の臭いは消え、かすかに鼻に残る麹の匂いに変わっていきます。有機堆肥に変わった生ゴミは畑の土へ還元され、りっぱに資源のリサイクルができあがります。また、保管しておいた発酵液は下水に流したり、トイレの便槽に流し込むと悪臭が消え、水洗トイレなどの貯水槽に入れると、タンク内の水あかがとれきれいになります。

私達、海苔漁家の抱える問題として、冬場、海苔抄き機から流れ出る抄き水に混ざった小さな海苔くずが、集落内をめぐるクリークへ流れ込み、生活排水といっしょになって水質悪化を早め、周辺住民の方に迷惑をかけていることと思います。

昨年の冬、異臭を感じ始めた頃、排水路に発酵液を流してみたところ、即効性はないものの、使っているうちに臭いが気にならなくなってきました。水の中のＥＭ菌が発酵分解することによって、有機物を水に溶かし、バクテリアに消化させてしまうことで汚水を浄化したようです。

汚水を浄化することは、生活環境、自然環境を守っていく上で、最も良い手段だと思います。

環境庁では、平成８年度に、有害物質を分解する能力のある微生物を使い、広範囲の環境汚染を安価に浄化する手法の、日本初の本格的な野外実験を行う方針が決められたと聞きますが、漁業に携わる私達が、水を汚すことなく管理する義務と責任を大きく持たなければならないと思います。

また、交流活動として、私も平成５年度に第１回佐賀県女性海外派遣団「ふれ愛の翼」に参加させていただきました。マレーシア、シンガポールの初めて目にする異国の文化や人々に感動し、アジアにおける日本を再認識することができ、自分自身の心の視野を少しなりとも広めることができたと思います。県内一円より集まった農業、漁業、商工業の同世代の女性達は、それぞれに輝き、自分の生き方や考え方を語り合えました。彼女達と知り合えたことは、私の最大の収穫であり、県内の産業を担う女性同志が刺激を受けながら、お互いの利点を吸収できるすばらしさを味わうことができました。今も第２回、第３回とふれ愛の翼の活動参加は続いています。

これからも、私達婦人部員はもっと幅広い視野を持って、婦人部の活動や地域活動に参加していきたいと思います。

３．これからの計画と問題点

９月に入り、海苔のシーズンが始まります。５ｔ足らずの小さな船が３０分ほどかけて、私達の生きる有明海の漁場に着きます。河口より一望する水平線ならぬ支柱竹線が一面に広がり、波頭を銀色に弾いて遠くに霞む東の峰より朝日の登る様や、仕事を終えた後に見上げる茜色に染まる西空の感動を、後継者不足の漁業に少しでも希望と夢が持てるようにと、子供達に語ってきました。

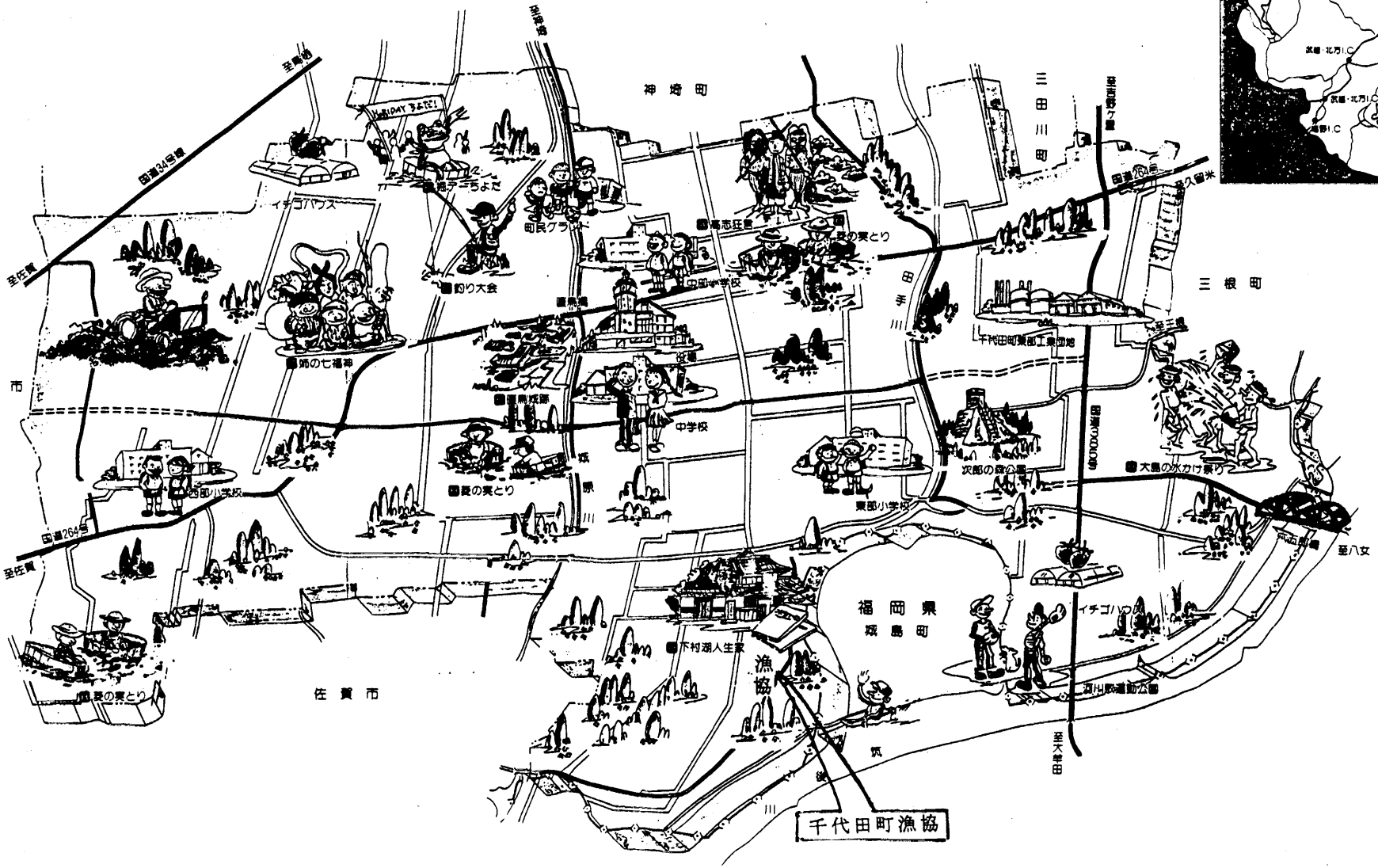
高校１年の息子も、冬休みには夫と一緒に海へ行きます。私達夫婦は息子に、「海に就職したら、すぐに社長になれるけんね。」と冗談を言いながら、将来のことを考えます。

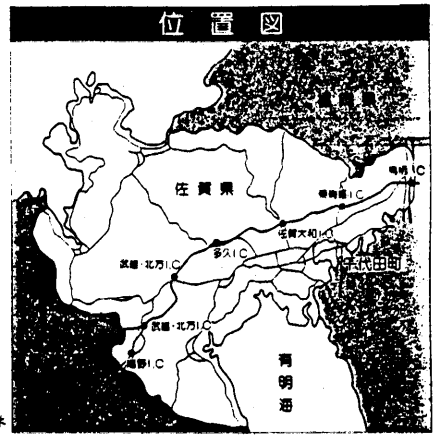
海や田んぼの技術を磨くだけでなく、今まで丼勘定だった経営も、組合員全員での青色申告の取り組みは４年目を迎えました。大きな概要が見えかけてきたことで、収支の内容を把握することができつつあります。

各漁家が自分の詳しい経営を知ることで、将来の夢が数字の上に重ねられるように、努力していきたいと思っています。

他にも健康管理、安全管理と心がけることはたくさんありますが、婦人部でも水を守る活動の第１歩を歩き始めた今、私達に生きる糧を産み出してくれる川や海が、豊かに美しく戻ってきてくれることを願いつつ、婦人部の仲間、家族と共に、活動の輪を広げていきたいと思っています。

ガイドマップちよだ


HOLIDAY ちよだ!
国道34号線
至鳥栖
至佐賀
国道264号
至佐賀
佐賀市
イチゴハウス
ちよだ
町民グラウンド
釣り大会
姉の七福神
西部小学校
蓮の実とり
神埼町
高志狂言
中部小学校
中学校
東部小学校
次郎の森公園
三田川町
三根町
千代田町東部工業団地
大島の水カけ祭り
至八女
福岡県
城島町
イチゴハウス
下村湖人生家
漁協
千代田町漁協
河川敷運動公園
佐賀市
至大牟田


位置図
佐賀県
鳥栖IC
千代田町
多久IC
筑紫・北方IC
有明海